

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で考えた理念を見える所に掲示し、一人ひとりが意識してケアの実践に取り組んでいる。	開所当初から地域密着型サービスの意義や役割を考え、職員全体で話し合い事業所独自の理念を作り上げ、日々の中でも話し合いながらサービス向上に活かしている。開所3年目を迎えた今、利用者の状況変化も感じられてきているため、理念について改めて話し合いの機会を持とうと意欲的である。	職員は事業所理念の下、利用者主体の暮らしを大切にし、日々のサービスを実践している。一人ひとりの利用者の状況観察も怠りなく優しい介護がなされている。また、今年度は新たな理念について話し合いを持とうと意欲的な姿勢が見られた。理念について外部者にも知ってもらえる等の工夫と共に今後の行動を大いに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校や地域の行事への訪問や地域の方のボランティアの訪問など招いて交流を図っている。自治会費を納め、地域の防災訓練や清掃活動にも参加している。	外出の折には地域の方々と気軽に挨拶を交わし、地区内の小中学校の行事に出向いたり、ボランティアの訪問、また、地域の共同作業への参加等で地域交流に向けた取り組みを進めている。今後は回覧板での地域行事の報せを受けたり、事業所行事についての発信等、双方向的な関りを進めていく準備も考えている。	町内会の一員として地域の共同作業への参加は進められているが、事業所行事について地域への発信の機会が限られ、地域住民との交流の機会はまだ少ない状況が窺える。今後は地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえる場であることを知って頂くためにも地域ネットワークの構築と共に継続的な地域交流を進めていかれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域活動の参加やボランティアの受け入れなどで認知症の方との関わる機会をもっていただいているが、理解や認識を得られるにはまだまだである。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回開催し、日頃の取り組みの写真などを用いて活動を報告し、ご意見やアドバイスをいただいている。	会議は2カ月毎に開催され、2カ月間の状況報告及びサービスの実際について報告されている。参加メンバーからの質問、意見、要望を得て日々のサービス提供に活かしている。会議内容については全職員に対しても積極的に情報提供を図っている。	報告や情報交換にとどまらず、会議の中でメンバーから出された意見をどのように対処し、その得られた成果についての報告も行い、今後は、より多くの家族や利用者が参加出来る機会も考慮し、更なるサービス向上に活かして行かれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村上市の介護高齢室と地域包括支援センターの担当者の方が運営推進委員になっており、活動状況や問題点を伝え、意見をいただいている。	市担当職員、包括支援センター職員とは日ごろから積極的な連携が構築されており、運営推進会議によらず、折に触れ相談、助言、連絡等が気軽になされ、共通理解を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1ユニットのため勤務者が1人の体制の場合には、一時的に施錠する場合もあるが、ご家族には了承を得ている。研修や会議等で拘束をしないケアを学び取り組んでいる	職員全員が法人全体の研修や内部研修で身体拘束をしないケアについてを定期的に学び、利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識のもとに、一人ひとりの日々の様子や行動を観ながら職員間で報告し合い、安全面に配慮した自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、伝達研修を行い職員全員が虐待防止について意識して取り組んでいる。日々の業務の中でも虐待につながる行動や言葉を意識して利用者様と接している。	外部研修に参加した職員が内部伝達研修を行い、職員全員が「高齢者虐待防止法」に関する理解の浸透や法令順守に向けた取り組みに力を入れている。また、管理者は職員のストレスが蓄積されないよう様子を窺いながら声をかけたり、相談ごとにも応じることの出来る関係性が築かれている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などに参加しているが、理解が不十分なところもあり、必要時には専門分野につなげるよう支援に取り組み、今後も学ぶ機会を提供していく。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を設けて説明を行い、不安や疑問がある場合はなお説明し理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や毎月の家族への手紙で様子を伝えている。遠方の家族には必要時には電話で連絡を取り、ご意・要望を伺い、ケアプランに反映させている。	家族には毎月利用者の様子を手紙や電話で伝えたり、面会時には何でも話してもらえ、雰囲気づくりに努め、意見や要望を伺っている。また、利用者同士の会話の中からも情報を得たりしながら頂いた意見や要望は書き止め、職員間で共有し運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を出し合う機会を設けている。また職員アンケートも実施している。	日々の暮らしの中での気づきや、実行してもうまいかなかったところについては管理者の理解の下、その都度話し合いをもったり、会議の中でも管理者は職員が何でも言える雰囲気づくりに努め、自由闊達な意見や要望が発言されており運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士やケアマネージャーなどの資格手当を設け資格取得などの目標をもって働ける環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修をや外部の研修への参加の機会を作り、自分の学びたい実習を受けられるよう体制をとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元のグループホーム管理者の意見交換会・交流会への参加、荒川地区の介護事業所との交流の機会に参加し、情報交換や職員同士の悩みごとなど共有している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報収集と事前訪問や面接等で本人の不安や要望を聴き安心して生活して頂けるケアに繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーからの情報収集と事前訪問や面接等で、家族の不安や疑問を傾聴し、家族も安心できるような説明することにより関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを見学に来ていただき、本人や家族の思いや状況を確認し、支援の提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事や役割を持って生活できるよう、支えあい暮らしていけるような関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月1回の手紙に写真を同封するなどして、家族に様子を伝えている。また誕生会等には家族にも参加を呼び掛け、本人を支えあって行く関係を作っている。	家族には毎月利用者の写真を同封した手紙の中で、今までの暮らしが継続できるよう日々の暮らしの様子を報告したり相談しながら、家族との関係継続に留意し、共に本人を支えていけるように努めている。家族と共に買い物や食事に出かける機会も大切にし、誕生会など来所してもらう機会づくりにも努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への支援はあまり出来ていないが、友人や親せきの方の来訪や外出で関係を継続できるように支援している。また家族や友人の方へ働きかけ馴染みの場所への支援も行っていきたい。	入居前に本人、家族からの聞き取りで馴染みの人や場について把握しており、どなたでもが気軽に立ち寄れるホームとしての雰囲気づくりを心がけている。馴染みの方々の面会の支援、家族の協力を得ての馴染みのスーパーへの買い物、希望があれば職員付き添いのもと帰宅したりと馴染みの人や場との関係性が継続できるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出・行事の機会など、皆さんで楽しめる時間を設けたり、気の合う同志がコミュニケーションを取れるように場を取り持ったり、職員が調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後にも相談や訪問に来ていただけるように声掛けを行っており、家族の方がボランティア訪問に来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認しケアプランに反映するようにしているが、困難な場合は家族から聞き取りを行ったり、日々の生活の中から本人の意向をくみ取るように努めている。	日ごろの関わりの中での何気ない会話の中からも思いや意向の把握に努めている。また、意思表示の困難な方には、家族から今までの暮らしの情報を得たりしながら、職員全員が一人ひとりの思いや意向について把握するように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族より本人の生活歴を家族に記入して頂き情報収集を行っている。入居後も日々の関わりの中で本人に伺ったり、面会の家族や友人より情報を得るなどしている。	入居前に前事業者から情報を得たり自宅訪問するなど、その人の生活歴や個性、趣味活動等も把握し、今までの暮らしが継続できるよう本人の気持ちに寄り添いながら、日々の中でもこれまでの暮らしを捉えていくようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を日々観察し、変化が見られる場合は全員で情報を申し送り簿等で共有し、その都度対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、本人の現在の課題を見極め、本人や家族の意向に添ったケアプランを作成している。	事前情報に加え、日々関りの中でも本人、家族の意見を聞きながら介護計画に反映させている。必要時には本人の様子を窺いながら職員間でも話し合い、カンファレンス、モニタリングを行っている。	利用者、家族の意向や思いについて話し合った結果を反映させた計画作成となっているが、本人、家族の理解に繋がるものとなるには難しいところもある。モニタリングについても本人が実感するサービスの在り方について職員全体の気づき、意見の反映されたものとなることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活記録や介護支援計画に記入し、申し送り簿の個人の特記事項に記入し、口頭でも情報を共有することで職員全員が一人ひとりの状態を把握しより良い支援が行えるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応えられるよう外出外泊などに柔軟な対応を努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の特養と協力し地区の祭り行事の訪問を受けたり、近くの小学校行事への訪問を行っている。また、地元の消防団に避難訓練への参加して頂き、ホームを見学していただく機会を設けた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医による月2回の往診と受診を行い、専門医への受診が必要な場合は家族と連絡を取り、スムーズに受診できるよう支援体制を整えている。	専門医やかかりつけ医に受診の際は、基本的には家族同行の通院となっているが、家族の都合がつかない場合は職員が同行し、日ごろの状況について医師との状況確認が行われている。受診結果についても双方向的に報告を行う等連携が図られている。また、事業所嘱託医による月2回の往診診療も利用者の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が主となり利用者の健康状態を把握管理している。利用者の体調変化があった場合は速やかに嘱託医に連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での状態を情報提供し、面会に行き家族やを病院担当者に状態を聞き、退院後もスムーズに施設へ戻れるような配慮をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に終末期をどのように過ごしたいか、どのようなケアを望んでいるか意向を伺い、嘱託医と面談して頂き、施設で出来ること伝え理解を頂いて、ケアに取り組んでいる。	「重度化及び終末期ケア、看取り介護の定義」の指針の下、法人内での研修や看護師の配置、嘱託医の協力を得てチームによる看取り体制が確立されている。利用者の状況変化に応じて家族と話し合い、事業所が対応できるケアについて説明が行われ、方針を統一すると共に、本人、家族の要望に沿えるよう随時意思を確認しながら取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時についての研修等を行い対応している。看護師、嘱託医へ24時間連絡が取れる体制になっている。夜間の緊急対応時には隣接施設の職員の応援など協力体制を整えている。	急変や事故発生時に備え、法人内研修や消防署の協力の下、救急救命法の訓練を行うと共に、応急手当の研修会にも参加し、知識、技術の習得に努め、実際の場面で活かせるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回日中・夜間で行っている。隣接の特養との協力体制と、地元の消防団の訓練へ参加いただき、緊急時の協力をお願いしている。	年間防災計画に従い隣接の法人施設と合同で消防署立ち合いの下、昼夜を想定した避難訓練を年2回実施しアドバイスを受けている。今後は近隣住民の協力や避難場所についても利用者と共に確認していく方向性について話し合っている。	火災発生時の訓練によらず他の災害時の避難方法も念頭に置きながら、運営推進会議でも話し合い、地域住民の協力も得られる体制づくりの構築を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や人格を大切に、その時に応じた声掛けに対応できるよう、虐待防止や接遇マナーの研修に参加している。	全職員が事業所の理念に基づき、利用者、家族の思いを大切に、笑顔とさりげない言葉かけで利用者と向き合い個別的ケアに取り組んでいる。また、虐待防止や接遇マナーの研修会等でプライバシー確保について学び、職員全員で理解を深めていく努力をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わりの中で本人の希望を聞き取り、自己決定できるよう声掛けや対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに合わせた生活リズムやこだわりを大切にしているが、職員の体制や行事などにより希望に添えない事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	床屋の外出・訪問など身だしなみの支援は行っている。気候に合った服装で本人に選んでもらえるよう配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った献立を提供し、職員や利用者同士で会話しながら一緒に食事をしている。食事準備や後片付けなど利用者が出来ることに参加して頂き、協力して生活している。外食や弁当を楽しむこともある。	園庭で利用者が職員と一緒に育てた旬の野菜や利用者の好みのものを取り入れ、季節感を盛り込んだ食事が提供されている。利用者は個々の力を活かし職員と共に盛り付けや後片付けまで共に行い、職員と共に食卓を囲み会話をもちながら同じものを食べ、和やかな食事風景となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事、水分量をチェックしている。一人ひとりの状態に応じて食事形態変えたり、水分を多めに摂っていただくなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後に各自で口腔ケアを行っていただき、不十分なところを職員が声掛けや支援をしている。夕食後には義歯を預かり消毒洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見な声かけや誘導で排泄できるよう支援している。表情や様子からの排泄サインにも配慮している。	個々の排泄チェック表を活用し、一人ひとりのしぐさ、表情や様子から排泄サインを察知し、その人に応じたさりげない声かけでトイレ誘導し、羞恥心や不安なく気持ちよく排泄できるように支援している。リハビリパンツから布パンツに移行できた方もおられるため、オムツやパット類は皮膚状態を観察しながら検討し、一人ひとりに合わせて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に繋がる食品を取り入れた献立や、乳製品の摂取。朝食に粉寒天を取り入れているほか、水分の摂取を気を付けている。軽い運動をして頂いたり、少し離れたトイレへ誘うなどの工夫もしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般浴が困難な方のために特浴も完備している。週3回の入浴であるが、別の日に入浴希望がある場合は対応できる体制にしている。	入浴支援についても個々の身体状況や希望に合わせて柔軟に対応している。また、浴室での対話は特に大切に、機能を活用して自立に向けた支援を行っている。入浴拒否のある方には無理強いせずタイミングを見計らいながら、声をかけたり日を変えたりしながら、寛いだ気分で入浴してもらえるよう支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも本人の体調や希望に合わせて休んでいただけるよう支援している。夜間は室温照明など安眠できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の処方箋をファイルしてあり、確認できるようにしている。一人ひとりの薬ケースで管理し、服薬時には声掛けと読み上げ確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みや能力に応じた作業を提供し、尊厳や感謝の気持ちを言葉で伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望による外出はできないこともあるが、施設での行事や買い物などで外出の機会はある。家族との外出には協力を行っている。	季節に応じた外出、日用品や衣類等個々の希望に沿った買い物を楽しんだり、学校の運動会や文化祭に出かけたり、季節感の感じられる場所を求めて紅葉狩りに出かけたりと、気分転換を図っている。家族との外出はいつでも可能であり、利用者の大きな楽しみとなっている。リビングには外出時の楽しい思い出の写真が掲示され、利用者の励みとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段の金銭管理は職員が行っているが、外出の際は買い物ができるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を掛けられるように配慮し、家族や友人からの電話は取り次いでいる。郵便物を本人に渡し、返事を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた壁面飾りやカレンダーを作成し、飾ることにより季節を感じていただくようにしている。	共有スペースは明るく開放的で居心地の良い空間となっている。窓からは広大な田園風景を見ることが出来、庭に繋がる林からは野鳥の鳴き声が聴かれるなど、季節の「移ろい」が感じられるのどかな情景となっており、季節に合わせた飾り物やカレンダー作りを楽しみながら利用者はゆったりと寛ぐことが出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや畳コーナーや廊下のベンチなどで、それぞれ仲のいい方と会話しながら自分のくつろげる場所で過ごしている。事務所前のお地藏様にお参りに行かれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や小物を持ってきていただき、居心地の良い居室になるようにしていただいている。本人の不安や危険がある場合は配置を変更し対応している。	本人、家族と相談し、家具や小物類、写真、作品等普段から使い慣れた馴染みの物、思い出の品物を持参してもらっている。馴染みの物を生かしてその人らしく落ち着いて過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が認識できるように張り紙をしたり、本人の出来る事は可能な限り行って頂けるよう声掛け支援している。		